

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

がん診療ガイドラインの運用等の実態把握及び標準的治療の実施に  
影響を与える因子の分析  
～「制吐薬適正使用ガイドライン」の運用と実施に関する調査～

青儀 健二郎・四国がんセンター・臨床研究推進部・部長  
加賀美 芳和・昭和大学医学部 放射線医学講座放射線治療学部門・教授  
沖田 憲司・札幌医科大学・消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座・助教

研究要旨

本邦のがん診療連携拠点病院においては、診療ガイドラインの推奨に基づく標準的治療の遵守率には施設間や診療科間に格差がある。今回、制吐薬適正使用ガイドラインの推奨の実施に関する調査を行い、その原因を検討した。結果として全体のガイドライン遵守率は76%であり、制吐薬適正使用ガイドラインの日常診療への浸透は進んでおり、高度催吐性リスク化学療法施行時の予防的制吐薬投与における推奨の遵守率は十分高いものと考えられた。しかし一部領域においては医学的に正当な理由から非遵守となる場合もあった。制吐薬適正使用ガイドラインの浸透・遵守・運用の限界も認識すべきである。

A. 研究目的

本邦のがん診療連携拠点病院においては、診療ガイドラインの推奨に基づく標準的治療の遵守率には施設間格差があり、かつガイドラインの推奨遵守は必ずしも高くない可能性がある。

この **guideline-practice gap** の一例として、制吐薬適正使用ガイドラインに謳われている高度催吐性リスク化学療法に対する推奨制吐剤の処方率は60.5%であると報告されている（平成27年6月厚生労働省がん対策推進協議会におけるがん対策推進基本計画中間報告書）。その原因・対策を探求することは、標準医療の推進において不可欠である。今回、制吐薬適正使用ガイドラインの推奨の実施に関する調査を行い、その原因を検討した。

B. 研究方法

高度催吐性リスク化学療法施行時の予防的制吐薬投与に関してアンケート調査を行った。アンケートの対象施設は日本癌治療学会がん診療ガイドライン統括委員会、連絡委員会、領域分科会、制吐薬適正使用ガイドライン改定ワーキンググループ委員が所属する44施設とした。対象領域は食道癌領域、胃癌領域、肝細胞癌領域、膵癌領域、胆道癌領域、大腸癌領域、脳腫瘍領域、頭頸部腫瘍領域、肺癌領域、乳癌領域、泌尿器科癌領域、婦人科癌領域、造血器腫瘍領域とし、572診療科にアンケートを依頼した。

（倫理面への配慮）

本研究では、特に倫理面の配慮は要しない。

## C. 研究結果

アンケートの回答率としては、施設別回答率が75%であり診療科別回答率が63%であった。ガイドラインの推奨内容の普及に関しては96%で推奨内容の全てもしくは一部を知っているとの結果であり、十分に普及されていると考えられた。推奨内容の実施率に関しては、76%で遵守されていた。領域別では造血器腫瘍領域で遵守率が36%と低い傾向を認めたが、その理由に関しては、遵守されていないレジメンの多くに治療としてステロイドが含まれているなど、非遵守の理由としては許容できるものであった。本邦における制吐薬適正使用ガイドラインの推奨は十分普及しており、その臨床への導入に関しても適切に行われていると考えられた。

## D. 考察

制吐薬適正使用ガイドラインの日常診療への浸透は進んでおり、高度催吐性リスク化学療法施行時の予防的制吐薬投与におけるガイドラインの推奨の遵守率は十分高いものと考えられた。

しかし造血器腫瘍領域においては医学的に正当な理由から非遵守となる場合もあり、これが遵守率の低下につながった可能性がある。今後、ガイドライン診療は本邦の医療現場に広く周知を行い、運用を展開していくが、その際診療領域の特殊性も考慮する必要があると思われた。

## E. 結論

制吐薬適正使用ガイドラインの浸透・遵守・運用は、癌診療の均てん化を継続するうえで重要であるが、その限界も認識すべきである。

## F. 健康危険情報

本稿ではなし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

①Takeuchi H, Saeki T, Aiba K, Tamura K, Aogi K, Eguchi K, Okita K, Kagami Y, Tanaka R, Nakagawa K, Fujii H, Boku N, Wada M, Akechi T, Udagawa Y, Okawa Y, Onozawa Y, Sasaki H, Shima Y, Shimoyama N, Takeda M, Nishidate T, Yamamoto A, Ikeda T, Hirata K. Japanese Society of Clinical Oncology clinical practice guidelines 2010 for antiemesis in oncology: executive summary. Int J Clin Oncol. 2016 Feb;21(1):1-12.

### 2. 学会発表

①Development of Supportive Care Guidelines in Japan : Kenjiro Aogi, International Session 5-1 : Supportive care for adverse events. 第54回日本癌治療学会学術集会、横浜、2016/10/20.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

特記事項なし